

アレルギー性鼻炎に対する 手術治療について

アレルギー性鼻炎の治療として一般に皆様がよくご存じなのは内服薬や点鼻薬などによる薬物療法ですが、薬だけでは十分に良くなり、とくにがんこな鼻づまりに悩まされている方に対して、当科では以下のような手術治療も行っていますのでお気軽にご相談ください。

1. アルゴンプラズマ凝固(APC)装置による鼻粘膜焼灼術

現在、鼻粘膜焼灼に広く使用されているのはレーザーと APC です。当科では後者を用いています。プラズマ化して伝導性を高めたアルゴンガスを吹き付けながら、高周波電流を流して組織を焼灼・凝固します。アルゴンガス中では安定して組織表面にスプレー状に放電されるため、広範囲を均一に連続して焼灼することができます。また深達度は約 1~2mm と浅いうえに、焼灼が進み組織表面が乾いてくると電気抵抗により自然に電流が流れにくくなって焼灼が進まなくなる性質があり、安全性も高いといえます。APC のすぐれた特長を 3 つ挙げれば

1. 痛みが少ない
2. 出血が少ない
3. 治療時間が短い

ことでしょう。外来で簡単な表面麻酔（薬の付いたガーゼを鼻内に入れる）を行うだけで痛みはほぼ抑えることができます。そして内視鏡で確認しながら焼灼を行います。手術時間は通常 15 分程度で、術後は鼻にガーゼを入れることもなく、入院は不要です。術後 1~2 週間は粘膜が腫れて表面にかさぶたも付くので鼻づまり症状がやや強くなりますが、その後症状は緩和し、鼻づまりだけでなく、鼻水やくしゃみ症状にも効果があります。治療の効果はおおよそ 1 年間（レーザーと変わりありません）で、繰り返し焼灼することも可能です。尚、高周波電流を使用することからペースメーカーを装着している方は、この手術を受けられません。

2. 粘膜下下鼻甲介骨切除術/下鼻甲介切除術

長年にわたるアレルギーの結果、鼻（下鼻甲介）の粘膜が厚くなり、元に戻らなくなったような方の場合には上記の治療でも鼻づまり症状が良くならないことが多く、粘膜下下鼻甲介骨切除術や下鼻甲介切除術をお勧めしています。前者では下鼻甲介粘膜に切開を入れ、粘膜の奥にある大きな下鼻甲介骨を切除することで下鼻甲介全体としての容積を減らすものです。余剰粘膜も一部切除します。後者は下鼻甲介粘膜を切り取る手術です。前者は後者に比べて鼻内の傷が小さくてすむことからかさぶたが付きにくいことが特長です。後者は粘膜のみの肥厚~腫脹が強い時に行います。手術時間が短く、鼻内が狭い方でも行えます。どちらも確実に鼻づまりが改善するうえに効果が持続します。手術は全身麻酔で行い、約 1 週間の入院加療が必要です。

